

若年聴覚障害者を対象とした言語教育・情報リテラシーの調査と相関分析

内野智仁・藤本裕美子

本研究では、若年聴覚障害者を対象に、英語の自己効力感、文法理解、英訳力に関する調査、読書力診断検査、国際版情報リテラシー尺度を用いたアセスメント・テストを実施した。それらの調査結果から、言語に関する能力・意識、情報リテラシーの実態が明らかになった。また、各種調査で得られた回答値を相関分析した結果、言語に関する能力・意識、情報リテラシーの一部の項目間に相関関係が示唆された。

キー・ワード： 言語教育 情報リテラシー 自己効力感 アセスメント

1 はじめに

我が国の生徒の学力・学習状況については、基礎学力の不足や学習意欲の面で課題があること、主体的な言語活動が軽視されている傾向があることなどが指摘されている（文部科学省 2016）。

児童生徒の学習意欲の面について、全国の小学4年生から中学2年生の各学年1,000名程度に調査した結果からは、勉強が「好き（とても好き+まあ好き）」と答えた小学生は62.0%であったのに対して、中学生は37.6%であったこと、学年が上がるにつれて割合が減少していること、教科に関係なく割合が減少していることが明らかにされている（ベネッセ教育総合研究所 2014）。英語学習に対する意識の調査結果からは、「英語の学習が好き」と回答した中学3年生が54.6%、高校3年生が47.2%であった実態が明らかにされている（文部科学省 2018）。

上述のように、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた学習内容の確実な定着を図ることは、特別支援教育における最も重要な視点の一つと言える。

また、我が国では2003年度から、高等学校に教科「情報」が設置され、学習指導要領の改訂などに伴って、小学校から高等学校まで体系的な情報教育が展開され始めた。学士課程教育においても、共通して目指す学習成果の汎用的技能の一つに「情報リテラシー」が挙げられ、情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断しモラルに則って効果的に活用できる技能の育成が求められている（文部科学省 2008）。

以上のような背景の中で、若年聴覚障害者を対象とした言語に関する能力・意識、情報リテラシーの実態を明らかにする調査研究が、不十分な状況にあることから、実態調査を実施すること、その実態から得られた知見を明らかにすることは、研究上、そして聴覚障害教育上、意義深いと考えられる。

2 研究目的

本研究では、若年聴覚障害者の言語に関する能力・意識、情報リテラシーの実態を明らかにするために、英語の自己効力感、文法理解、英訳力に関する調査、読書力診断検査、国際版情報リテラシー尺度を用いたアセスメント・テストを実施する。そして、それらの調査結果と相関関係の分析結果を明らかにすることを目的とする。

3 調査の内容と方法

(1) 英語学習に関する自己効力感

Pintrich and De Groot (1990) による「Motivated Strategies for Learning Questionnaire (MSLQ)」をもとに、森 (2004) が日本語訳した自己効力感を測る尺度を使って Table 1 の計9項目の調査を行った。英語の勉強に関する調査であると明示した上で、6件法（6：とてもそう思う～1：まったくそう思わない）によって回答を得た。

(2) 英語の文法理解

英語の基本文法の問題5問を使って調査した。問題は、聴覚特別支援学校で英語の授業を担当する教

員が作成した。下記の①～⑤について、同じ文型を選択群の中からそれぞれ2個ずつ選択させて回答を得た。1回答10点、計100点満点で採点した。

- ① She smiled. (SV)
- ② This is a pen. (SVC)
- ③ We study English. (SV0)
- ④ My sister gave me a book. (SV00)
- ⑤ They made my happy. (SVOC)

(3) 英訳力

辞書やインターネットを活用した英訳力を確認するための下記10問を使って調査した。問題は、聴覚特別支援学校で英語の授業を担当する教員が作成した。1問10点、計100点満点で採点した。

- ① 私は筑波大学附属聴覚特別支援学校の生徒です。
- ② 私の夢は、台湾に行くことです。
- ③ 先週の木曜日に、上野動物園に行ってきました。
- ④ 12月に、台南豊学校を訪問したいと考えています。
- ⑤ 山田様にくれぐれもよろしくお伝えください。
- ⑥ 太郎君が言ったことを、私に教えてください。
- ⑦ 授業中に携帯電話を使ってはいけません。
- ⑧ 明日の3時頃、ご都合いかがでしょうか。
- ⑨ 文化祭で映画を制作します。
- ⑩ 5月8日までに、電子辞書を用意しなさい。

(4) 読書力診断検査

読みの力である「読書力」を測定する検査として、福沢ほか(2008)によって開発された教研式読書力診断検査の中学校用の問題及び採点方法を使って調査した。本検査手法は、読書力を測定する妥当性があることが検証されており、読字力(最高26点)、語彙力(最高38点)、文法力(最高22点)、読解力(最高29点)の下位項目をもとに、読書力(最高115点)を明らかにできる。

(5) 情報リテラシーのアセスメント・テスト

情報リテラシーの調査を国内外で実施し多面的に分析できるように、藤井(2007)が開発した8つの下位尺度(関心・意欲、基礎操作能力、情報収集能力、数学的思考能力、情報整理能力、応用操作能力、態度、知識・理解)、計32項目で構成された「国際版情報リテラシー尺度」を使って調査した。今回

Table 1 英語(自己効力感)の集計結果(N=15)

項目	平均	SD
① 自分はよい成績をとれると思う	2.2	1.0
② 自分は、授業でうまくやれると思う	3.1	1.2
③ 授業で出された問題や課題を、自分はうまくこなせると思う	3.1	1.2
④ 教えられる内容を、自分は理解できる方だと思う	3.5	1.2
⑤ 授業のレベルについていけると思う	3.0	1.6
⑥ 他の人と比べると、自分は授業で学習する内容についてよく知っていると思う	2.7	1.3
⑦ 他の人と比べると、自分はよくやれると思う	2.2	1.2
⑧ 他の人と比べると、自分はよい学習者であると思う	1.7	0.9
⑨ 自分の英語学習能力は、他の人に比べてすぐれていると思う	1.7	0.8

Table 2 本研究の調査結果(N=15)

実態調査項目	平均	SD	最低	最高
英語(自己効力感)	23.3	8.3	9	35
英語(文法理解)	37.3	26.9	0	100
英語(英訳力)	35.0	16.5	5	65
読書力診断検査	80.4	14.5	52	103
情報リテラシー	34.4	4.6	27	41

の調査では、各項目に対して、自分に当てはまるならば「はい」、自分と違うならば「いいえ」、どちらとも言えないならば「？」に印を付ける形式で回答を得た。今回は、「はい」を2点、「いいえ」を0点、「？」を1点として集計した。

Table 3 情報リテラシーの集計結果 (N=15)

尺度	項目	平均	SD
関心・意欲 (平均 : 5.9) (SD : 2.3)	・ パソコンを使っていると時間を忘れて夢中になってしまう	1.1	1.0
	・ パソコンを思う存分、使いたいと思う	1.2	0.9
	・ インターネットを使って、いろいろなことを調べたい	1.9	0.3
	・ パソコンを使って勉強するのは楽しい	1.6	0.7
基礎操作能力 (平均 : 5.9) (SD : 2.0)	・ ワードを使って書いた文章をきちんと印刷できる	1.8	0.4
	・ エクセルを使って、グラフを作成することができる	0.9	0.9
	・ ワードを使って、手紙を書くことができる	1.3	0.8
	・ インターネットの検索機能を使って情報を取り出せる	1.9	0.4
情報収集能力 (平均 : 3.9) (SD : 1.2)	・ 図書館で本を見ながらいろいろなことを調べるのは得意である	0.8	0.8
	・ 自分でテーマを決めて調査研究するのは好きである	0.5	0.8
	・ 常に、いつ、誰が出した情報が確認するようにしている	0.7	0.7
	・ レポートを書くときには、まずいろいろな情報、資料をたくさん集めるようにしている	1.9	0.5
数学的思考能力 (平均 : 3.8) (SD : 1.5)	・ 計算するのは早い方である	0.3	0.5
	・ 数式を見ると頭が痛くなる	0.9	1.0
	・ 頭を使う作業は好きである	0.9	0.7
	・ 計算でうっかりミスをすることが多い	1.7	0.6
情報整理能力 (平均 : 4.2) (SD : 1.2)	・ 私のノートは人が見てもわかりやすく書かれていると思う	0.9	0.7
	・ 行事予定は、必ず前もって書き込んでおくようにしている	1.7	0.6
	・ 資料は、整理してファイルにとじておくようにしている	1.4	0.8
	・ 調べたことをグラフや表にまとめるのが得意である	0.3	0.6
応用操作能力 (平均 : 3.7) (SD : 1.2)	・ パソコンで自分のホームページを作れる	0.4	0.6
	・ プログラム言語を用いて、パソコンを動かすプログラムを書くことができる	0.2	0.4
	・ プレゼンテーションソフト（例：パワーポイント）を使って、調べたことをみんなの前で発表できる	1.7	0.6
	・ デジタルカメラで撮った映像を自分で自由に写真にできる	1.3	0.8
態度 (平均 : 4.5) (SD : 1.9)	・ だいたい毎朝、新聞を読んでいる	0.5	0.8
	・ テレビのニュース番組は、毎日、見るようにしている	1.5	0.8
	・ 常に新しい情報を集めるようにしている	1.3	0.8
	・ パソコンが動かなくなったら、すぐ電源を切る	1.2	0.9
知識・理解 (平均 : 2.6) (SD : 0.9)	・ 「常に情報は正しい」と思ってしまう	0.3	0.6
	・ パソコンのことについて詳しい	0.2	0.4
	・ 電子メールの怖さを知っている	1.2	0.9
	・ 著作権とは何か、説明することができる	0.9	0.7

4 調査と分析の結果

今回の調査は、18 歳から 20 歳までの若年期の聴覚障害者 15 名を対象に実施した。調査結果は、Table 1、Table 2、Table 3 に示す通りであった。

また、調査結果間の相関分析から、関係性が明らかになった項目は下記の内容であった。

- 英語（英訳力）と英語（自己効力感）＝他の人と比べると、自分はよい学習者であると思う ($r=.540$, $p<.05$)、自分の英語学習能力は、他の人に比べてすぐれていると思う ($r=.637$, $p<.05$)
- 英語（英訳力）と情報リテラシー＝パソコンで自分のホームページを作れる ($r=.548$, $p<.05$)、常に新しい情報を集めるようにしている ($r=.516$, $p<.05$)
- 英語（自己効力感）と情報リテラシー＝ワードを使って書いた文章をきちんと印刷できる ($r=.576$, $p<.05$)、ワードを使って、手紙を書くことができる ($r=.558$, $p<.05$)、行事予定は、必ず前もって書き込んでおくようにしている ($r=.547$, $p<.05$)
- 情報リテラシー（基礎操作能力）と英語（自己効力感）＝自分はよい成績をとれると思う ($r=.518$, $p<.05$)、授業のレベルについていけると思う ($r=.562$, $p<.05$)、他の人と比べると自分はよい学習者であると思う ($r=.597$, $p<.05$)、自分の英語学習能力は、他の人に比べてすぐれていると思う ($r=.551$, $p<.05$)
- 英語（文法理解）と情報リテラシー＝計算でうっかりミスをすることが多い ($r=.608$, $p<.05$)、私のノートは人が見てもわかりやすく書かれていると思う ($r=.604$, $p<.05$)、パソコンのことについて詳しい ($r=.606$, $p<.05$)、他の人と比べると、自分はよい学習者であると思う ($r=.549$, $p<.05$)、自分の英語学習能力は、他の人に比べてすぐれていると思う ($r=.617$, $p<.05$)
- 読書力診断検査と情報リテラシー＝私のノートは人が見てもわかりやすく書かれていると思う ($r=.547$, $p<.05$)、授業のレベルについていけると思う ($r=.600$, $p<.05$)、他の人と比べると、自分はよい学習者であると思う ($r=.635$, $p<.05$)、自分の英語学習能力は、他の人に比べてすぐれていると思う ($r=.555$, $p<.05$)

- 英語（自己効力感）と読書力診断検査＝読字力 ($r=.554$, $p<.05$)、文法力 ($r=.561$, $p<.05$)、読解力 ($r=.630$, $p<.05$)
- 英語（英訳力）と読字力 ($r=.516$, $p<.05$)

5 まとめ

本研究では、言語教育と情報リテラシーの調査と分析を行った。今後、本成果を踏まえ、関連内容の定着を促す指導方略の設計・検証に着手したい。

〔参考文献〕

- ベネッセ教育総合研究所 (2014) 小中学生の学びに関する実態調査 速報版, https://berd.benesse.jp/up_image/s/research/Survey-on-learning_ALL.pdf (参照日 2018 年 12 月 1 日) .
- 藤井義久 (2007) 青少年の情報リテラシーに関する評価尺度の開発: 日本と北欧諸国の中学生を対象にして, 日本教育工学会論文誌, 30(4), 387-395.
- 福沢周亮・平山祐一郎・応用教育研究所 (2008) 教研式 Reading-Test 読書力診断検査「実施と利用の手引 (中学校用)」, 図書文化社.
- 文部科学省 (2008) 学士課程教育の構築に向けて (答申), http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf (参照日 2018 年 12 月 1 日) .
- 文部科学省 (2016) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申), http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm (参照日 2018 年 12 月 1 日) .
- 文部科学省 (2018) 平成 29 年度英語教育改善のための英語力調査, http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1403470.htm (参照日 2018 年 12 月 1 日) .
- 森陽子 (2005) 大学生の自己効力感と英語学習方略の関係, 日本教育工学会論文誌, 28(suppl), 45-48.
- Pintrich, P. R., & De Groot, E. V. (1990) Motivational and self-regulated learning components of classroom academic performance, Journal of educational psychology, 82(1), 33-40.